

平成 26 年 11 月 12 日

会社名 中越 パルプ 工業 株式 会社
 代表者名 代表取締役社長 加藤 明美
 (コード番号 3877 東証第 1 部)
 問合せ先 管理部長 荒屋 英治
 (TEL. 0766-26-2404)

**繰延税金資産の回収可能性見直しに伴う法人税等調整額の計上および
 平成27年3月期第2四半期累計期間業績予想との差異、通期業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は下記のとおり繰延税金資産の回収可能性見直しに伴う法人税等調整額を計上することとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成26年5月14日に公表いたしました平成27年3月期の業績予想について、発表内容を以下のとおり修正いたします。

記

(金額の単位：百万円)

1. 繰延税金資産の回収可能性見直しに伴う法人税等調整額の計上

平成 26 年 7 月 25 日付けの「固定資産の譲渡および特別利益の発生に関するお知らせ」にて当社大阪営業支社用地（以下、当該用地）の売却決定を公表しており、それに伴い、当第 2 四半期連結累計期間において、当該用地に関する将来減算一時差異について、「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」（日本公認会計士協会監査委員会報告第 66 号）に基づいて、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、スケジュール可能な将来減算一時差異として認識しました。この結果、法人税等調整額を連結で 509 百万円、個別で 509 百万円を計上いたしました。

2. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想との差異（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	51,000	1,300	1,250	700	6.01
実績値(B)	49,519	1,407	1,418	1,290	11.07
増減額(B-A)	△1,480	107	168	590	
増減率(%)	△2.9	8.3	13.4	84.4	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	48,246	1,572	1,603	613	5.26

3. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1 株当たり 純利益
前回発表予想 (A)	102,000	2,600	2,500	1,400	12.01
今回修正予想 (B)	99,000	1,800	1,800	1,700	14.59
増減額 (B - A)	△3,000	△800	△700	300	
増減率 (%)	△2.9	△30.8	△28.0	21.4	
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	99,721	3,026	2,943	531	4.56

4. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想との差異（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	44,000	900	850	450	3.86
実績値 (B)	42,608	993	1,058	1,084	9.31
増減額 (B - A)	△1,391	93	208	634	
増減率 (%)	△3.2	10.3	24.5	141.1	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	41,503	995	1,080	372	3.20

5. 平成 27 年 3 月期通期個別業績予想の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1 株当たり 純利益
前回発表予想 (A)	88,000	1,800	1,700	900	7.72
今回修正予想 (B)	85,000	1,150	1,150	1,300	11.15
増減額 (B - A)	△3,000	△650	△550	400	
増減率 (%)	△3.4	△36.1	△32.4	44.4	
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	85,669	1,930	1,946	3	0.03

6. 差異および修正の理由

当第 2 四半期連結累計期間の業績につきましては、消費増税関連に伴う駆け込み需要の反動による販売数量の減少や原燃料価格の高騰など利益悪化要因はあったものの、製品価格の改定や中長期成長戦略プラン「ネクストステージ 50」でのコスト削減の取組みの効果もあり、増益となりました。

また、上記「1. 繰延税金資産の回収可能性見直しに伴う法人税等調整額の計上」に記載のとおり、当該用地に関する将来減算一時差異について、スケジューリング可能な将来減算一時差異として認識したことにより、法人税等調整額 509 百万円を計上したことで、当第 2 四半期連結累計期間の四半期純利益が増加いたしました。

通期の業績につきましては、消費増税関連による駆け込み需要の反動による販売数量の減少の長期化、急激な円安進行による原料価格の高騰など厳しい経営環境が続くと予想されます。このような状況下、当社グ

ループはいかなる経営環境下にも耐えうる安定した経営基盤構築に向けた中長期成長戦略プラン「ネクストステージ 50」の必達による利益改善に引き続き取り組んでまいります。利益悪化要因をカバーすることはできないと判断し、上記のとおり通期業績予想を修正するものであります。

(注) 上記に記載した予想数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいた見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、今後様々な要因の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上